

6月19日

学芸講座「古文書に見える動物たち： ライチョウ・ウナギ・ゾウ・トラ」Q&A に寄せられたご質問に 講師・中尾先生がお答えします (岐阜大学地域科学部資料・情報センター元職員)

Q 可児市兼山に個人で所蔵された明治期などの資料があります。何か残す方法はありませんか？

所蔵されている方のご意向が優先されますので、公開できない場合は無理に公開されなくても良いと思います。秋の湿気が少ない時に、虫干しなどされましたら、史料の保存のために良いと思います。個人で史料を残していくことは大変なことです。居住されている自治体の文化財担当の方々等（博物館や資料館など）と相談していかれると良いのかもしれませんが。

Q ゾウやトラはどこから来たのか分かりましたが、ヒョウは岐阜に来ていたのですか？
二条城などにトラの絵がありますが、ライオンはないのですか？

現段階で、ヒョウが岐阜に来ていたということは確認できていません。ただ、文政13年（1830）に、名古屋でヒョウの見世物がありましたので、岐阜にヒョウが来ていた可能性は否定できません。万延元年（1860）にもヒョウが日本に来て、各地を見世物として回りました。ゾウやトラのように、膨大にある古文書のどこかに記述が発見されるかもしれません。二条城などには、ライオンの絵はありません。ヤン・ヨンストンが記した『動物図譜』という動物百科事典が17世紀中頃、日本に輸入されました。その挿絵にライオンの絵があり、この絵に影響されてライオンの絵が、少しずつ描かれていったようです（参考：名古屋市博物館編集・発行『特別展 盛り場―祭り・見世物・大道芸―図録』2002年、岡崎市美術博物館編『大鎖国展―江戸に咲いた異国の花―』岡崎市美術博物館・中日新聞社、2016年）。ほか宮内超三の丸尚蔵館の図録も、参考になりました。
展覧会概要／第51回 虎・獅子・ライオン―日本美術に見る勇猛美のイメージ―宮内庁

(kunaicho.go.jp)<<https://www.kunaicho.go.jp/culture/sannomaru/zuroku-62.html>>

Q 昔はトラやゾウ等大きな動物はどのように運ばれたのですか？

海外から日本へ輸送される際は、船を使いました。国内を移動するときも、動物を竹または木製の檻などに入れて、船などで移動していたと思われます。荷揚げ後、町中を移動するときには、大八車などを使用したのではないかと思います。不明な点も多いため、調べていきたいと思っています。

Q うなぎを扱う際の税制がどうなっていたのか気になりました。

うなぎ等の川魚を獲る漁業者は、領主（幕府や藩）に対して運上という税金を納めていました。18世紀末頃、尾張藩士・樋口好古が編集した『濃州徇行記』によると、美濃国石津郡五町村（海津市）の場合

「今は大江川通運上金二分、銀三匁つゝ納め来れり、此あたり殺生多くはガゴジを用ると也、又投網、四手網も用ゆ、此江通りにて鮎、鯰を捕る事多し、鯉は少し、又夏は鱶を多くとり」（出典：平塚正雄編『濃州徇行記（復刻版）』大衆書房、1970年）とあります。